

「原爆被爆者における免疫老化とその他の放射線被ばく後影響の調査」 に関する米国アレルギー感染症研究所と(財)放射線影響研究所 との研究契約の締結について

米国アレルギー感染症研究所(以下、NIAID)は、外部専門家委員会による科学審査の結果を受けて、(財)放射線影響研究所(以下、放影研)が NIAID からの研究要請書(Request For Proposal)に応えて申請した研究計画を承認いたしました。

この計画では、広島市の被爆者を対象にして、加齢による免疫の機能低下に放射線被ばくが及ぼす影響を研究します。この研究が解決すべき具体的課題は、過去の原爆放射線被ばくが、加齢による免疫機能低下を加速する程度、この加速のメカニズム、そのような免疫変化による健康影響(ワクチン接種に対する免疫獲得能力など)などです。

この研究の遂行にあたり、放影研は、日本の4研究機関(千葉大学、慶応大学、徳島大学、国立医薬品食品衛生研究所)および米国の5研究機関(Duke University, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, University of Georgia, University of Arizona, and National Institute of Aging)の加齢と免疫の研究分野の専門家と研究チームを結成しました。このチーム編成によって、原爆放射線被ばくにより免疫能がどの程度低下するのか、また、それに関与するメカニズムは何なのかを研究する上で、すでに免疫学の高度な能力を有する放影研の研究者を、技術的側面及び専門性の面から補強することになります。

放影研の使命は、原爆被爆者および比較的大きな環境被ばく、職業被ばく並びに医療被ばくを受ける数百万人にも及ぶ人々の健康と福祉に貢献するという観点から、放射線の人体影響に関する平和目的の研究を進めることにあります。放影研は、その科学研究を通して、核兵器のない平和な世界の実現に寄与できることを望んでいます。

この研究チームは、放影研の中地敬、楠洋一郎、林奉権の3名の研究員が率いることとなります。60年以上に及ぶ被爆者の追跡研究に立脚した放影研におけるこの研究は、医学及び人類のために貴重な研究機会となります。放影研の平和目的を考慮して、本契約は、免疫の基礎的研究を目的とするものとし、いかなる放射線医療対策の開発を目的にするものではありません。放影研関連資料は放影研ホームページ<http://www.rerf.or.jp>で入手できます。

米国アレルギー感染症研究所(NIAID)は、米国国立衛生研究所(NIH)において、また米国国内および全世界中で、感染性疾患および免疫関連疾患の原因を研究し、これらの疾患を予防・診断・治療するより良い方法を開発するための研究を実施・支援しています。報道発表、概況報告書およびその他のNIAID関連資料はNIAIDホームページ<http://www.niaid.nih.gov>で入手できます。

米国の医学研究機関であるNIHは27の研究所を有する、米国保健福祉省の下部機関です。NIHは基礎・臨床・トランスレーショナル医学研究を実施・支援する米国の主要連邦機関であり、一般的な疾患と稀な疾患の両方についてその原因と治療方法を研究しています。NIHおよびそのプログラムの詳細情報については<http://www.nih.gov>をご参照ください。

以上

研究契約に関するご説明

(財)放射線影響研究所(以下、放影研)は、米国アレルギー感染症研究所(以下、NIAID)との間で、すでにご報告した次の内容に関する研究を遂行する契約を平成21年9月30日付けで締結いたしました。

- 1) 造血幹細胞と樹状細胞への加齢と放射線被ばくの影響
- 2) インフルエンザワクチン投与に対する免疫応答への加齢と放射線被ばくの影響
- 3) 放射線被ばく者の免疫老化の総合的評価
- 4) 胸腺の構造や機能に及ぼす加齢と放射線被ばくの影響

7月中旬の NIAID 外部専門家委員会による科学的には受理可能との結果通知を受けて、NIAID と放影研は細部にわたる研究計画および契約内容に関する協議にはいりました。この間、去る9月8日の広島、同11日の長崎における地元連絡協議会では、いろいろなご意見をいただきました。これを受けて、契約内容を当日ご報告した基本方針にそったものにするべく、その後も細部にわたる協議を続け、契約締結に至ったわけでございます。

研究内容等については、すでにご説明した内容と変りはありません。予算の総額は、5年間で 967 万ドル余の予定となり、このうち放影研への配分額は 396 万ドル余で、全体の41%にあたります。第1年目の予算額は、全体で187万ドル、この内放影研には84万ドルが配分されます。

放影研は、被爆者および多くの広島・長崎市民が世界の恒久平和を希求し、核兵器廃絶のために弛まぬ努力を続けてこられ、今後もこの動向に大きな関心を寄せられるであろうことに、敬意を表し共感するものであります。NIAID は、放影研の使命とこのような立場を理解した上で、本研究が原爆被爆者の希求する平和目的の免疫基礎研究であることを契約書に付された誓約書において確認しております。

今後 5 年間、前年までの成果を基に毎年契約を更新することになっております。地元連絡協議会のご意見を参考にするなど、上述の研究方針との齟齬を生じないよう十分注意を払いつつ、今後の契約更新に当たっても慎重に進めてゆくつもりでございます。

平成 21 年 10 月

財団法人 放射線影響研究所
理事長 大久保利晃